

第11回 関市まちづくり市民会議 会議録

日時 平成25年8月20日 19時～21時

場所 わかくさ・プラザ総合福祉会館

参加者

A班：神谷、美濃羽、長谷部、太田、吉田、荘加

B班：鷺見、山田（敏）、加納

C班：包子、多田、古田、山田（銑）

1 提案書に対する市の回答書に係る意見

【A班】

- ・提案した2つの事業について実施するとの回答をいただけたことは大変うれしく思う。しかし、現在ある事業に当てはめたりするだけでは不十分。
- ・「親子読書コンクール」については、夏休みの宿題の読書感想文のように、文章力を競うのではなく、提案したように、親から子へ、子から親へ本をプレゼントしたりすることで親子のコミュニケーションを図ることに重点を置いた事業であることに意味がある。
- ・学校に事業をお任せするのではなく、教師、PTA、市民、行政を巻き込んだ実行委員会を立ち上げて実施できると、より事業効果を高めることが出来る。
- ・「子どもたちの地域間交流」については、中学生リーダー養成研修会の内容がよくわからないが、地域に行ったときに、その地域の子どもたちが参加していることが大切。
- ・地域間交流を地域の自慢大会のような視点で行えば、提案⑤も一緒に出来る可能性はある。

提案①について

回答書からは当初の思いが含まれていないように感じる。

「親子のコミュニケーション」を図るのが目的。

そのための方法として、本の交換や、手紙によって思いを伝えることを考えた。

既存の読書感想文に対して、親子読書感想文は「親子が読書を通じてどのようなコミュニケーションをとれたか」を見る。親子読書コンクール実行委員会を立ち上げたらどうか。

提案②について

生徒たちの交流を積極的に入れてほしい。開催地にて現地の生徒が必ず含まれているようにする。次期の第2期は、提案⑤と合わせて、地域自慢発表大会を企画したらどうか。そこで生徒と親が一緒になって発表したらどうか。そのなかで交流を深めたらどうか。

【B班】

- ・正直がっかりした。
- ・HPの改善をするとの回答は評価できる。
- ・学校HPが全て同じフォームにしたら学校の個性がなくなる。
- ・学校HPで子どもがいきいきと活動しているところが知りたいのである。そういう情報を出して欲しいのである。
→しかし、汎用性が出て、新しい情報を誰でもアップできる。先生にとって容易となる。
- ・SNSは、全校全員がやる必要がない。やりたい学校がないのか確認すべきである。
「うちの学校は楽しいぞ」とSNSをやり始める学校もあるはずである。
SNSはむしろ楽しんで始めればよい。
- ・教師の負担は考慮すべき。
- ・昔の親は、行事に友達を誘って参加してくれた。しかし、今の親は一人で参加する。
昔は親同士につながりがあった。クラスの話し合いも多くの人が参加して、親と学校が同じ価値観だった。しかし、今の親は参加しない。そんな学校と親同士のつながりがなくなったから、B班の提案をしたのである。簡単に人と人のつながりができ、広がっていく、それがSNSのよいところ、経費もいらない。なぜ、教育委員会が真っ向から否定をするのか理由が分からない。
- ・いじめがある場合、学校は隠ぺいする。親と教師の信頼があれば、こんな場合はどうしたらよいのかと親に意見が聞ける。今は、学校が情報を出さず閉ざしてしまっている。
そういうことが日常であるから、親と教師が信頼関係を築かねばならない。
B班の提案を全部否定するなら、どうやって教師が親とつながろうとしているのか教えて欲しい。
- ・親と教師、子どもが一緒になって活動することに意味があると提案したのに、子どもだけの活動について教育委員会から回答がきた。意味が伝わっていない。
- ・親と教師が信頼をつくるというのが提案であったはず。土堂小学校と同じHPをつくって欲しいとは思わない。こういう前例があるので、それを目標にモデル的に試行的やりたい人、やりたい学校からやってみるというスタンスでよいと思う。
- ・親、教師、子どもからなる会議体を作って、継続審議としたらよい。
- ・やりたいPTAからSNSを始めてみて、賛同する教師を仲間に入れていくことでもよい。

提案③④⑤について

玉砕という結果になった。特に提案④については、費用がかからないし、うまくいっている前例もある。担当課からは運用を考えていないとの回答だったが、個々の学校がどのように考えているかは分からない。始めていけるように考えたい。

【C班】

提案1について

- ・デマンドバスの委託をタクシー会社が実際に受けてくれるのかが心配である。
- ・美濃市や他の自治体ですでにタクシー車両を利用したデマンドを実施しているので関市でできないはずがない。美濃市で実施しているので関市でもぜひ実現を考えてもらいたい。

提案2について

- ・収入が減ることが心配であるなら、定期券の金額を減らない程度に設定すれば良い。
(金額を安くする分、利用者が増えれば収入減にならない)
- ・家族なら誰でも使えるような定期券の導入はどうか。公共交通に親しむということを目的とするならば効果がある。
- ・定期の利用期間が支障となる。自由に期間が設定できると利用者が増える。
- ・基本的には、収入が多少減っても利用者が増えることが目的である。
- ・定期券として担当課でも考えられていることが分かった。定期券であれば、利用者も増えるのではないか。家族パスを考えてみたらどうか。

提案3について

- ・いつ頃までに実施するのか示してほしい。
- ・市民が主体で進めることが重要であることは理解できますが、やはりスタートは行政主導で進めていかないとできない。
- ・大変なことなので、公共交通課をつくり、しっかりと進めてほしい。

提案4について

- ・フリー切符の効果が低いことは理解できたが、土日だけの発売はできないか。
- ・土日祭日は観光に利用できるような運行にできないだろうか。
- ・公共交通利用者の観光施設割引などはすぐできるので、進めてほしい。
- ・観光マップとバス路線など、活用できるところから始めていいのでは

提案5について

- ・可能性が低いと思っていたが、できるということであるなら、ぜひ導入を進めてほしい。

2 まちづくり市民会議 1 期を終えての感想、第 2 期まちづくり市民会議への意見

■A 班

- ・世代のちがう人たちと市の課題を話し合うことが出来たことは、自分にとっていい体験となった。
- ・もっと出来そうもないような、大胆な意見が出せてもよかったかも。事業の実現性を考えすぎて、提案が小さくまとまってしまった。
- ・もっと若い世代や女性の参加が多くなるとよい。これからのまちづくりは女性が背負っていかねば。委員の半数が女性になるような、女性の参加しやすい会議の持ち方を検討すべき。
- ・この会の委員公募について、もっと広くいろんな世代の人に参加してもらうために、無作為抽出してはどうか。
- ・昼間に「女性市民会議」を開いてはどうか。
- ・課題 → 事業提案の過程で、本当にやりたいことが出来るよう、無理に 3 グループに分けるのではなく、少人数グループになってもよいのではないか。

■B 班

- ・出席率が悪い
- ・市に提言する場に参加でき、若者と一緒に話し合えたことがよかった。
- ・前半の勉強会が長すぎ
- ・グループの分け方が不自然、もっと小グループで好きなテーマ、好きな仲間とやったらよい。
- ・成果を期待したが、なかなかむずかしかった。
- ・今後、こういう場を大切にしながらはならない。継続すべき。

■C 班

- ・参加者が徐々に減ってきた。参加されなくなった人に理由を聞いてみたい。
- ・研修期間が長すぎる。早い段階で各部会に分かれてテーマごとに研修した方がよい。
- ・月に 1 回では、内容を忘れてしまう。月 2 回で期間を半年にしたらどうか。
- ・グループの単位（人数）を自由にしてはどうか。無理やりテーマを合わせられた感じがする。
- ・テーマを決めたが、自分が考えたテーマでないので力が入らなかった。
- ・課題が実際の自分自身の課題になっていない場合、思いが弱くなる。
- ・研修でもっと講師の方と意見交換する時間が欲しかった。